



ワンマン運転実施における諸課題の解決を求める申し入れ

JR東日本では現在、在来線66線区中47線区でワンマン運転が実施、さらに今後は常磐緩行線、南武線、横浜線と計画されています。一方で「車載用ホームモニタシステム」による視認性や死角の問題、接続等の案内に関わる問題は遅々として進んでいません。収益確保と効率化に注力するあまり、多発する安全問題やサービス品質の低下を見過ごすことはできません。現在の短・中編成ワンマン運転における課題解決なしに、今後のワンマン運転の拡大および長編成ワンマン運転実施は到底容認することはできません。



1. 短・中編成ワンマン運転実施における事故・事象の発生件数並びに原因と対策を具体的に明らかにすること。
2. 「車載用ホームモニタシステム」に関する故障発生件数並びに故障原因、改修実績を具体的に明らかにすること。また、カメラの定期清掃の在り方及び経年劣化に対する考え方を明らかにすること。
3. 「車載用ホームモニタシステム」において「赤化」「白化」が発生し、安全を阻害していることから対策を実施すること。また、ワンマン運転実施線区における駅設備としてホーム屋根を設置するとともに照明設備との照度調整等の改善を図ること。
4. ワンマン運転時の起動開始時に触車や戸挟み等が発生したことに対する見解と対策を示すとともに、駅ホームにおける安全確保のための整備を行うこと。
5. ワンマン運転の実施にあたっては、輸送品質・安全品質・サービス品質及び線区の特情を考慮した列車運行計画と車両・ホーム設備を構築したうえで実施すること。
6. 今申し入れに対する回答及び団体交渉は2024年4月30日までに実施すること。

社員・利用者が安心して利用できる鉄道創造に向け、職場から声をあげましょう!